
明日という時間

来夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

明日という時間

【Nコード】

N9334D

【作者名】

来夏

【あらすじ】

GWの中迎えた望の16歳の誕生日その日は全然楽しくなかった嵐の前の静けさが望の心を不安にさせた。次の日聞いた悲劇の事実

.....

第一話 明日

5月4日 今日私の誕生日。でもなんか楽しくなかった。明日って何があるかわからないけど 胸騒ぎがしてなんか苦しい。なぜかわからない苦しみが私を襲った。その夜 不気味に風が吹いた。

次の日目を覚ますと友人の優希から着信があった。そのときは何があったかなんてわからなかった。ただなんとも言えない不安に胸が締め付けられる気がした。私はすぐに優希に電話した。

「もしもし ゆう？どうしたの？」

何気ない私の言葉 優希の声が聞こえてこない

「ゆう？どうしたの？」

優希は静かに息をはいた。

「望 蓮が車にはねられて重体で今 集中治療室にいらんだって」

私は声がでなかった。蓮は私の彼氏でもあり幼馴染でもある。

「蓮は今この病院にいるの？」

私の口から自然にでた言葉だった。

「平和総合病院」

その言葉を聞いた瞬間 私は慌てて支度をはじめた。

「優希ありがとう」

それから急いで玄関に向かった。母は優しく声をかけた。

「どこ行くの？まだ8時20分だよ 朝ごはん食べていきなさい」

そんな優しい言葉さえ私は聞くことができなかった。

「望なんかあったの？」

私は静かに口を開いた。

「蓮、車にはねられたって」

母は驚いていた。そしてすぐに言った。

「面会なら10時からでしょ？まだまだ時間あるじゃない」
私は母に背を向けて

「蓮は今 集中治療室にいるの」
とつぶやいた。母はとても悲しい顔をした。

「そうなの．．．お気の毒にね」
財布とケータイを持ち出かけようとしたとき父が来て

「どっか行くなら送っていくよ」

と言った。私たちの会話を聞いていたのか わからなかったが優しい一言だった。

「平和記念病院」

と素直に言った。父は

「わかった」

としか言わなかった。そして私と父は病院へと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9334d/>

明日という時間

2010年12月21日17時44分発行